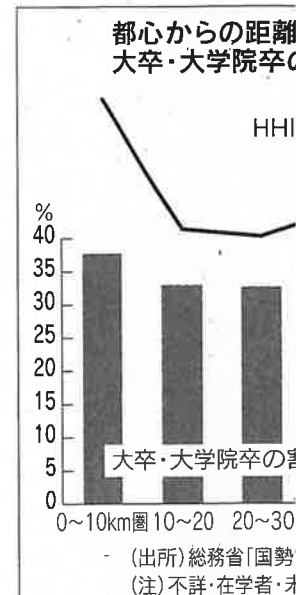


東京への「一極集中」にどう向き合うべきかを考えた。東京圏の人口集中による出生率低下をもたらしている点が指摘された。この点に

「東京への一極集中」にどう向き合うべきかを考えた。東京圏の人口集中による出生率低下をもたらしている点が指摘された。この点に



東京圏に着目すれば、都心部での制御されたさらなる集... 大学院卒の居住者の割合が高いことがわかる。さらに図には、国勢調査の小地域集計ベースでの大卒・大学院卒の居住者の集中度を示す指標としてハーフィンダール・ハーシュマン指数(HHI)は、近隣の市区

私見卓見

OPINION

公益財団法人産業廃棄物処理事業
振興財団理事長 加藤幸男

政府は再生可能エネルギーを国の「主力電源」に位置づける方針だが、廃棄物のエネルギー化にもっと力を入れるべきではないだろうか。廃棄物は発生量の割に十分再利用されず、単焼却か埋め立て処理されているケースが多い。地域の住民生活と産業活動から排出され、地産地消のエネルギーになりつつあるのに、なぜ廃棄物は有効利用されないのか。私は一般廃棄物と産業廃棄物が別々に処理されている点に問題があると考える。家庭などから出る一般廃棄物は自治体が、工場などで発生する産業廃棄物は排出元の事業者が、それぞれ回収・処分

廃棄物再利用でエネルギー自立へ

一体処理すれば、一定量を確実に集められるようになる。別々に集める社会的なコストも軽減できる。一体処理は法的に何の問題もない。自治体の中には産廃処理会社との連携に抵抗感を持つところもある。岡山県倉敷市のように一体処理を手掛けている自治体は一部だ。だが、人口減が進む中、焼却施設の稼働率が低下し、休止炉を抱える地域も出てきた。歳入が減る自治体には老朽化した炉の更新も難しいだろう。一体処理を進めるには、効率的でオープンな施設の建設と運営を目指すのが肝要だ。自治体、住民、地域の企業、産廃処理会社、専門家も交えて特別目的会社(SPC)を作り、廃棄物の回収・処理方法、費用の使い道などをしっかり説明できるようにする。そうすれば、住民参加型の「おらが地域の発電所」として愛される存在になる。エネルギーが不足するリスクを回避し、災害にも強い街づくりにつながるだろう。民設民営方式を導入すれば、自治体が負担する建設費や更新費用も減らせる。こうしたエネルギー拠点を核とした特色ある地域共生エリアができるはずだ。関係者の理解が進めば、廃棄物の利用を妨げるしがらみも乗り越えていける。欧米では埋め立て処理が主流だったが、現在は民間が廃棄物を集めて大規模発電につなげる取り組みが広がってきている。自給自足の資源が乏しい日本こそ、廃棄物をエネルギーとして生かす取り組みが必要だ。それができていない現状は非常にもったいないと思う。まずは最初の一步が肝心。成功事例が出れば、全国各地に次々と普及し、日本のエネルギーの自立が見えてくると考えている。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる意見を紹介します。〒100-8066東京都千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京本社「私見卓見」係またはkaisetsu@nex.nikkei.comまで。原則1000字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。添付ファイルはご遠慮下さい。趣旨は変えずに手を加えることがあります。電子版にも掲載します。

やさしい経済学

中央大学准

サッカーでは、2014年のワールドカップでドイツが優勝した時に、Match Insightsというシステムが12番目の選手だったと言われたほど、データ分析は重要になっていきます。ドイツサッカー連盟とIIT大手のSAPが共同開発したMatch Insightsは、トラッキングシステムによって測定した選手やボールの位置から、選手間の距離やパス成功率を算出し、最適なパスの経路を即座に導き出したりします。ドイツの監督は選手のボール保持時間を最小化するという目標を掲げていますが、例えば、ある選手のボール保持時間が長い理由を客観的データに基づいて徹底的に分析し、練習や選

スポーツ界に広がるデータ革命 ⑤

手間のコミュニケーションに生かすことにより選手の平均保持時間が短縮しました。日本のJリーグからスタジアムにカメラを用いて、試合のトラッキングデータ収集されるようになります。選手や審判の毎秒25回の頻度で測定されています。ボールの位置は低く、そのままなのは難しいとされます。Jリーグが公開する各選手の走行距離リント回数は、トラッキングデータに基づいて出されています。サッカーは一般にバスケットボールやデータ分析が難